

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年10月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4072500509
法人名	社会福祉法人 大川鶴喉会
事業所名	グループホームこすもす苑
所在地 (電話番号)	福岡県大川市大字大野島855番地 (電話) 0944-87-5533
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年9月12日

【情報提供票より】(平成21年8月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	9 人
常勤	14名、非常勤 1名、常勤換算 6.5名

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

(4) 利用者の概要(平成21年8月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木病院、高宮クリニック、おおかわメンタルクリニック、柿添歯科クリニック
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は田園が広がる筑後川近くで朝日や夕日を眺められる自然豊かな所に立地している。ホームは家庭的な雰囲気であり、職員は入居者一人ひとりを温かく見守りながらその人らしい暮らしが出来るよう支援している。また、ホームの基本理念である「敬愛～尊厳と親しみの気持ち・・・」を念頭に日々のケアを自己評価しながらサービスの質の向上に努めている。小規模多機能施設が併設され、共有の敷地内には足湯が設けられており、地域の方や面会に来られた家族も利用できるよう開放されている。地域とのつながりを大切にし、地域福祉の拠点となるよう管理者、職員共に認知症高齢者のケアに熱心に取り組まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を受けて職員全員で外部評価の意義について学び、どう活かしていくか検討を重ねて理念を具体化した行動指針を作成している。毎月の目標作成や、認知症ケアについて職員一人ひとりの勉強を深めている。「鍵をかけないケアの実践」についても、玄関のセンサー音に頼るのではなく、地域の交番へ協力要請したり、センサーの音量を下げるなど積極的な取り組みを行い、具体的に改善されている。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、自施設を客観的に分析でき、「成長できる場」との高い認識を持っており、今回の自己評価は職員全員にサービス評価の意義や目的を伝え、管理者が職員に意見を求めながら作成している。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は利用者、家族代表、地域の民生委員、市の職員が出席して、2ヶ月に1回定期的に開催されている。ホームの現状、行事の予定、報告、事故報告等を行い、貴重な意見を頂いている。出された提案や意見は検討してすぐに日常のケアで実践している。</p>
重点項目	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>重要事項説明書に苦情相談窓口を明記しており、玄関には苦情受付箱を設置している。日頃から家族とのコミュニケーションを大切にしており、要望等がないか意見が言いやすい関係作りに努めている。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩や地元スーパーでの買い物を行い、挨拶を交わしたり、保育園の運動会や小学生との稲刈り、職員が参加する地域行事のマラソンの応援に参加するなど積極的に地域と交流を図っている。足湯を開放したり、交番への挨拶など細やかに地域との密着に取り組んでいる。</p>

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念として「敬愛～尊厳と親しみの気持ちを～」 「利用者の人権を尊重し、住み慣れた地域において安心して快適な生活が送れるよう支援します。」という地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念は玄関やリビングなどの目に付きやすい場所に掲示している。手書きの理念には、その想いも伝わってくる。また理念をより具体化するために毎月の行動指針を作り、会議で振り返り評価を行っている。課題点を翌月の目標とし、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、法人を通して地域情報を得て、地域行事に参加している。保育園の運動会や小学生との稲刈りに招待されたり、散歩時には近隣住民と挨拶を交わすなどの自然な交流が実践されている。また、法人の夏祭りには打ち上げ花火を行うなど盛大であり、地域との積極的な交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価は運営推進会議にも報告し、印刷して玄関ホールに掲示している。今回、具体的に改善されたことが確認できた。自己評価も全職員で取り組み、日頃のケアを振り返っての気づきや再認識があり、ケアの統一やサービスの向上に活かしている。第三者が見た姿がそのままの姿ととらえ、その時だけでなく常に継続できるように努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、家族代表、民生委員、利用者代表が参加し、2ヶ月に1回開催している。利用者の状況や事故報告、行事案内を報告しており、地域の情報交換も行っている。出された意見や助言はサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市職員の参加があり、ホーム便りを渡したり、必要時には市役所を訪問するなど相談しやすい関係作りに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている利用者は現在いないが、必要時は説明できるようパンフレットを備え付けており、職員も勉強会を通して制度への理解を深めるよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には利用者の健康状態や暮らしぶりを報告し、職員の異動についてはホーム便りで伝えている。面会が少ない所には請求書を郵送せず、職員が家族宅を訪問するなど積極的な関わりがあり、申し送りノートを活用して家族への伝達事項を全職員が確認している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱を設置し、重要事項説明書には苦情受付担当者、第三者委員を明記している。2ヶ月に1度介護相談員の訪問や毎月ふれあい交流会を開催し、家族同士で話して頂くなど家族がホーム側に要望を出しやすいよう信頼関係の構築に努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職等で欠員が出た場合に、法人内での異動がある。異動の際は、引継ぎ期間を設け、利用者へのダメージを防ぐとともに、異動後も相談しやすい他部署との連携がある。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用は法人で一括して行われるが、年齢や性別による排除はない。適正を評価して人材を配置し、管理者もその能力を発揮できるよう一人ひとりの意見を受け止めている。資格取得のための勤務調整や休みの交替にも配慮し、働きやすい環境作りを行っている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は常に意識されており、法人全体での勉強会を行い、啓発活動に取り組んでいる。外部研修に参加した際は、伝達講習を行い、日々の介護の現場で理念の実践にむけて取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職種別の年間計画を立て、段階に応じた職員の育成に取り組んでいる。外部研修は、適正を判断して勤務の調整を行い、参加を奨めている。また、法人全体での研修や法人内グループホーム合同の勉強会も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会の会員となり、研修等で認知症ケアや事例検討会を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。しかし、市内の同業者の協会への加入が少なく、相互訪問等の活動までには至っていない。	○	地域の同業者と勉強会や相互訪問、行事などでの交流等を通じて、共にサービスの質の向上に努められることに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者が利用者宅へ訪問し、面接を兼ねて自宅の雰囲気を確認しており入居後の参考にしている。希望があれば体験利用や宿泊も可能であり、本人家族の希望に応じれる準備は出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一緒に過ごす時間の中で利用者寄り添い、その人らしい生活を支えながら、利用者から畑作りや芋の皮の痒みのとり方を習うなど学ぶ機会があり、夜勤明けに労いの言葉をかけてもらうなど、支え合いの関係が築かれている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念としている「敬愛」を基本に利用者、家族から得た生活歴や趣味、思いを日々の暮らしの中に取り入れている。意向を表すことが困難な方には、家族からの聞きとりや、利用者の言葉、表情、行動などから思いや意向を把握し利用者本意の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当が決まっており、本人、家族等から得た思いや意向、主治医の意見、担当者の気づき等をサービス担当者会議に提示し、利用者本意の暮らしが表現できるよう全職員で意見交換を行ない、介護計画が作成されている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行なっている。利用者の状態変化が生じた時、現状に合っていない時など期間に関わらず必要に応じ見直しがされる仕組みが有り、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時の見舞いや通院介助、早期退院の受け入れ、家族の宿泊などの体制ができています。また、地域の中学生のバリアフリー体験学習の受け入れを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人家族が希望するかかりつけ医について話し合いをしている。受診は基本的には家族対応としているが、家族対応が困難な場合は職員が対応し、適切な医療を受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や看取りに関する同意書を基に利用者、家族と話し合いを行っている。利用者、家族の意向を大切に支援が行われるように定期的に研修を行って職員間の意識の強化に努めている。かかりつけ医とも話し合い、全職員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の接遇でのプライバシー保護については、職員は当たり前のこととして意識しているが、時には、自身の行動を振り返ってみようとし、職員間で確認し合っている。記録は事務室で保管され、日々の記録も人目に触れないよう配慮されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れとして日課はあるが、利用者の生活のペースを大切にしている。起床の遅い人、回廊式の廊下を自由に歩き回る人、居室へ出たり入ったりする人等、利用者の行動を職員は温かく見守っている。外出等の希望にもできるだけ寄り添うよう努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら、食材の買い物、野菜の皮むき、片付けなど職員と共に行っている。利用者が使い慣れた湯のみや茶碗、お箸を使って、本人のペースを大切にしながら職員も利用者と同じテーブルで同じ物を摂食し楽しい食事の時間を過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を希望される利用者、2日、3日に一度の入浴を希望される方、それぞれの要望に添った支援を行っている。入浴を拒否される方には、無理強いにならないように、声かけやタイミングを見計らい入浴を促している。時には隣の小規模多機能施設の天然温泉を楽しむこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の人生の中で培ってきた能力を活かせるように日々の生活の中に取り入れている。野菜の皮むき、料理方法、洗濯物たたみ、野菜作りなど本人の力に応じた役割・楽しみが持てるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候に応じて近くの筑後川の土手沿いを散歩したり、時には手作りのお弁当を外で楽しんだりして、戸外に出かけられるよう支援している。年に一度の外出や、隣の足湯を楽しんだりその日の一人ひとりの支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関は日中施錠はされていないが、安全確保のためにセンサーが設置されている。利用者が黙って外出されることもあり、できるだけ職員が同行するようにしている。近くの交番との交流を今後活かせるように取り組んでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で年2回昼夜を想定した避難訓練を実施している。併設の介護福祉施設と小規模多機能施設での避難訓練も実施し有事の際の連携の強化に努めている。全職員は連絡網、誘導、器具、非常用品などに関する認識を共有している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が、利用者の好みなど考慮した献立を法人の栄養士にチェックしてもらっている。毎日の食事量、水分摂取量の記録をし、利用者の状態に合わせた取り組みができるように取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間のリビングは吹き抜けの木造作りで、明るく広いガラス窓から田園風景が広がっている。中庭を挟んだ回廊式は利用者の居室や動きが見渡されるようになっている。廊下の各隅にはソファが置かれ、職員と一緒に、あるいは一人で思いおもい自由に居心地よく過ごせる工夫がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれの部屋の入口には、花の絵柄の名前が掛けられ、室内にはタンスや椅子、ベッドなど馴染みの家具や調度品が持ち込まれている。希望により畳の持ち込みもあり、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせるよう取り組まれている。</p>		